

ミャンマー難民の現状調査報告

2024年1月21日

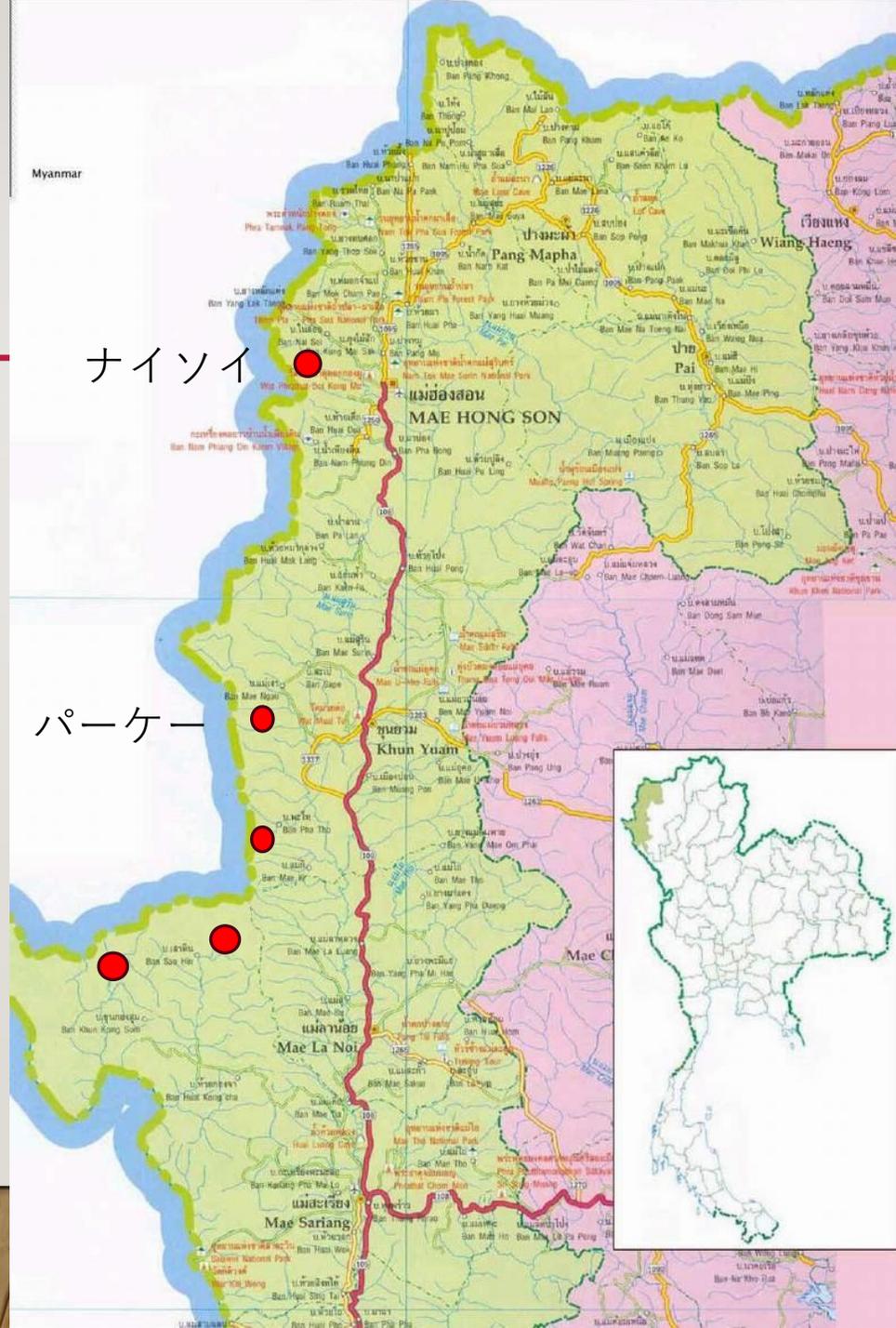
眞鍋 貞樹

日程: 2024年1月5日より14日

調査場所

メーホンソン県
ナイ・ソイ
クンユアム
パーケー難民キャンプ

赤い点が、新しく設置された難民キャンプ(TSA)



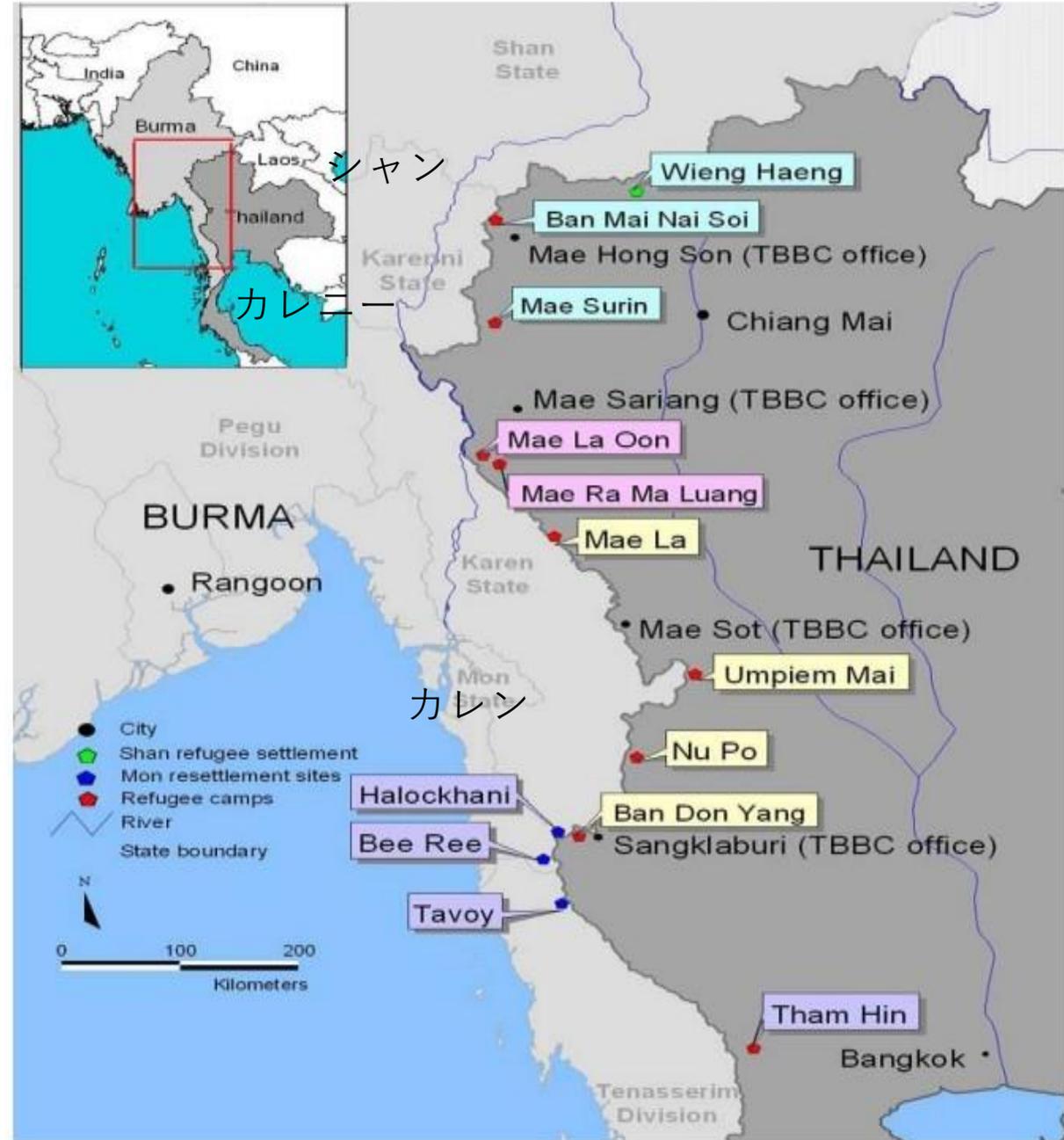
ミャンマー難民キャンプの区分

ミャンマー難民キャンプの区分					
	キャンプの種類	数	法的地位	人数	国際NGOからの支援状況
<タイ側>					
	古くからある難民キャンプ	タイ全土に9か所	難民としての特別な法的地位	200,000人程度	許可されたNGOによる支援
	TSA(一時安全地域)キャンプ	メーホンソン県内に5か所	難民として扱われず	90,000人程度	同上
	自主避難民(Non TSA)	不明	曖昧	ナイソイで200人程度	なし
<ミャンマー側>					
	タイ側から帰還させられた難民キャンプ	不明		カレニーで70,000人程度	タイからクロスボーダーでの支援
	都市部から逃げた国内避難民キャンプ	不明		不明	支援困難

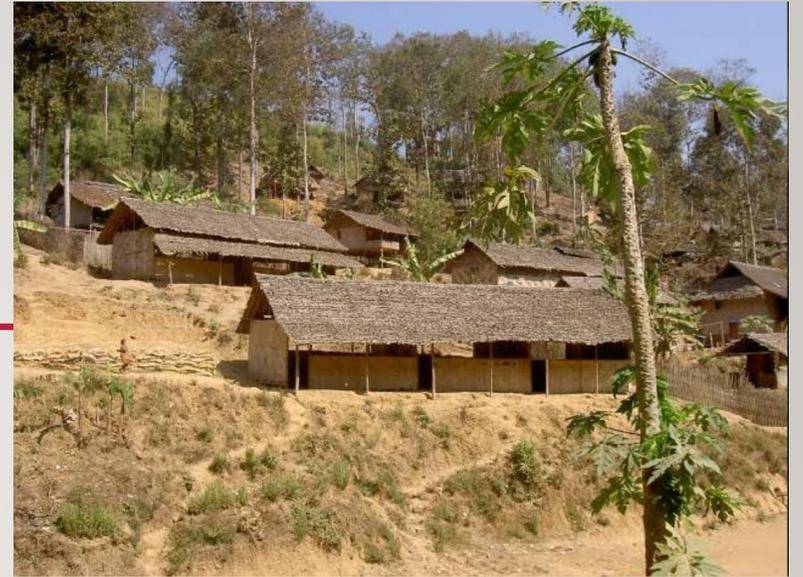
タイに古くからあるミャンマー難民キャンプ

これらの古くからタイ側に存在するミャンマー難民キャンプと、近年、大量に発生した避難民キャンプ(TSA: **Temporary Safety Area Camp**)とは切り離されている。相互の接触はできない。両者とも、国際NGO等は、許可なく入ることはできない。

【タイの難民キャンプ及びミャンマー（ビルマ）国内避難民キャンプ分布図】



ナイ・ソイの古くからある難民
キャンプ(GOOGLE EARTHより)



難民発生当時のタイ側のキャンプ (現地新聞より)





クンユアムのTSAキャンプ跡地



ナイ・ソイの一時安全地域
キャンプ(TSA)を訪問するこ
とは、タイ政府により禁止
されているため、直接訪問
することはできなかった。
かろうじて、クンユアム
(Kun Yuam)近郊のパーケー村
(Pha Khae)にある一時安全地
域キャンプ(TSA)の跡地を視
察することができた。

ミャンマー側(カレン州)の難民キャンプ (COMMUNITY SCHOOL PROGRAM提供)



クーデター後に、山間部に避難した子供たち。森の中で学習をしている風景。



ミャンマー側(カレン州)の難民キャンプ(眞鍋撮影)



2023年1月にカレン州の難民キャンプを訪問。

クーデター後に、山間部の村に避難した人々が作ったキャンプ。家のご主人の手作り。学校は昔から建設してあったもの。

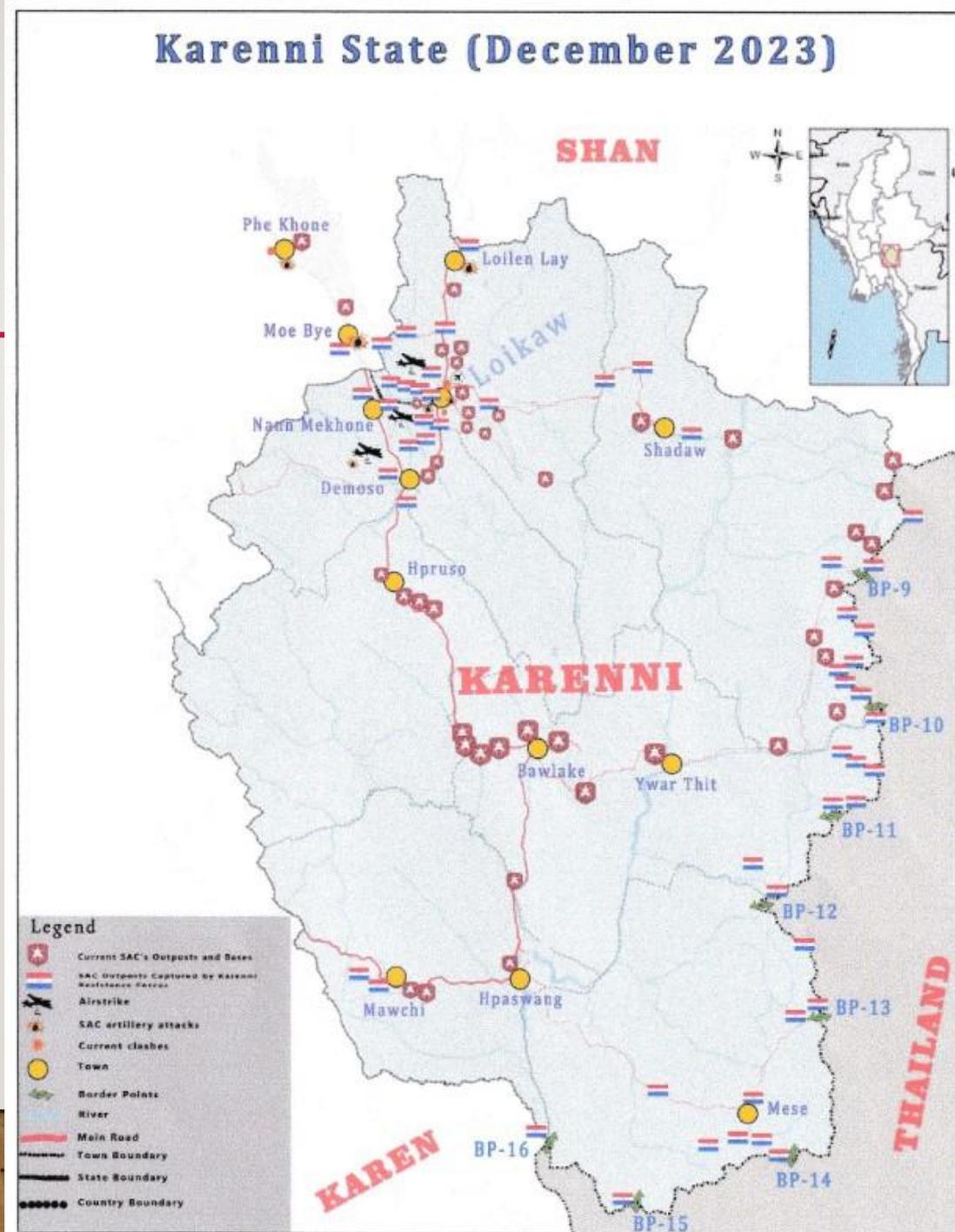
村には子供たちが多い。村やキャンプには、電気、水道、ガス等は一切なし。



カレニーにおける戦闘状況

2023年の春ごろから、ミャンマー政府軍によるカレニー各地への攻撃が続き、BP(Border Point)を通じて、多くの避難民がタイに越境した。比較的安全なBPは、No.10と14。

直近では政府軍による攻撃は落ち着いているが、都市部の住民は、空爆や戦車による攻撃を恐れて、農村部に避難キャンプを設置している。



最近の難民の状況

- **2021**年に発生したミャンマー国軍のクーデターにより、少数民族との戦闘が激化した。そのため、タイ国境沿いに多くの避難民が殺到した。カレニー州からも大量の住民が、タイとの国境を越え、メーホンソン郡の山間部にタイ政府によって設置されたキャンプ(一時安全地域:**TSA:Temporary Security Area**)にて避難生活を送っていた。避難生活に対する人道支援は、タイ政府によって許可された**NGO**のみ行われていた。だが、それらは必要最低限の支援であり、避難生活は劣悪なままに置かれていた。

現地調査:NGOからのヒヤリング



CTER:
The
Coordination
Team for
Emergency Relief



KNOW:
Karenni National
Woman
Organization:



KSWDC:
Karenni Social
Welfare
Development
Center



Administration
Committee from
Myanmar Side

ヒヤリングの概要

- タイから帰還させられた避難民のキャンプの状況は最悪である。食糧、医薬品、衣料、生活用品が不足している。
- 特に疥癬(かいせん)が蔓延している。
- そのため、クロスボーターでタイ側から支援物資を送っているが、バイクと徒歩である。しかも、そのための運搬費を負担できない。
- 必要な物資は、ターパリン(日本でいうブルーシート)である。屋根にも使えるし、貯水用にも使える。
- タイ国内には、**TSA**にも入らず、難民キャンプにも入れず、またミャンマーにも帰還できない「行き場のない避難民」が数多くいる。ナイソイには200名程度だが、全体は不明である。

調査結果

- 現在の時点では、メーホンソン県においては、「**TSA(一時安全地域)**」と呼ばれる9か所の難民キャンプから、ほとんどの避難民がミャンマー国内に帰還させられた。残る一か所のナイ・ソイの「一時安全地域」の難民キャンプも**2024年2月**に閉鎖される予定である。しかし、またいつ、大量の避難民が発生するかは予断を許さない状況であり、それに備えておくことは必要である。
- 一方、ミャンマー国内にはタイから帰還させられた避難民キャンプ(**IDPキャンプ:Internal Displaced People Camp**)が存在している。その避難民キャンプは、以下の二通りである。
- 一つは、タイから帰還させられた難民が国境沿いに避難している**IDPキャンプ**、そして、二つは、新たにミャンマーの都市部から逃げてきた住民が避難している**IDPキャンプ**である。その現状は、日本人など外国人が直接訪問することは困難なため、詳細は不明であるが、ヒヤリングの範囲からはどちらも深刻な状況であることがうかがえた。その数は、カレニーで**70,000**人程度である。

まとめ

- ミャンマー政府と、少数民族との間の紛争は終わりを見せない。停戦が求められるが、多くの少数民族側は、軍事政権とは停戦交渉はしない、と断言している。
- そのため、再び戦闘が激化し、大量の避難民がタイ側に越境してくる可能性がある。したがって、その時のための対処を用意しておくことが大切である。
- 現状では、タイ側からクロスボーダーでのミャンマー側への避難民キャンプへの支援が求められている。
- ただし、多くの避難民がタイ側に残っている事態も考慮して、支援をしていく必要がある。